

平成 24 年 3 月 8 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(特活) 横浜 NGO 連絡会

NGO 相談員による出張サービス実施企画について

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり企画実施いたしましたので報告いたします。

記

1 団体名

(特活) 横浜 NGO 連絡会 / (特活) 沖縄 NGO センター / (特活) 開発教育協会

出張者氏名：

小俣典之 (特活) 横浜 NGO 連絡会
金城さつき (特活) 沖縄 NGO センター
大仲るみ子 (特活) 沖縄 NGO センター
西 あい (特活) 開発教育協会

2 出張サービス企画名

(特活) 横浜 NGO 連絡会・(特活) 沖縄 NGO センター・(特活) 開発教育協会
3 団体合同による『よこはま国際フォーラム 2012』における出張相談

3 実施日時

①平成 24 年 2 月 11 日(祝・土) 11 時 00 分～17 時 00 分

(特活) 横浜 NGO 連絡会単独による出張相談

②平成 24 年 2 月 12 日(日) 11 時 00 分～17 時 00 分

(特活) 横浜 NGO 連絡会・(特活) 沖縄 NGO センター・(特活) 開発教育協会
の 3 団体合同による出張相談

4 場所

『よこはま国際フォーラム 2012』の会場

*JICA 横浜 4F および 1F ロビー、ギャラリーを会場として使用

5 実施内容

*相談会場『よこはま国際フォーラム 2012』

- ・日時：2月11日（祝・土）・12日（日）、11：00～17：00
- ・会場：JICA 横浜
- ・NGO・JICA・国際機関・学校など40団体により国際協力・国際交流に関するセミナー・ワークショップ全47講座が開催されました。
- ・ギャラリー展示を1月28日～2月21日に実施し、東日本大震災復興支援に関するNGO、JICA、関係機関の支援活動をパネル展示により紹介しました。
- ・ギャラリー展示会場と4Fセミナー会場の2ヶ所に情報コーナーを設置して主催団体・参加団体の資料を配架しました。
- ・4Fセミナー会場に相談コーナーを設置して外務省NGO相談を実施しました。同コーナーでは、JICAによるボランティア応募相談も同時に実施されました。

i 相談対応サービスの実施

4F セミナー会場に隣接して相談コーナーを常設し相談対応サービスを実施しました。「青年海外協力隊OB会」、「シニア海外ボランティア経験を活かす会」もデスクを並べて相談業務を実施しました。これによりNGO相談と併せてJICAボランティアに関心を持つ人も対象とした一元的な相談対応を実施することができました。また、(特活)横浜NGO連絡会による独自体制（出張相談以外）により、NGO活動に経験が深い弊会の理事など6人も相談対応の応援に入りました。

ii ワークショップの開催

開発教育のワークショップを開催しました。

*講座タイトル：

『移民の歴史から多文化共生を考える ～教材体験ワークショップ～
with(特活)沖縄NGOセンター&(特活)開発教育協会』

*主催：(特活)横浜NGO連絡会

*開催時間：2月12日（日） 15：00～16：50

*参加者人数：25名

*講師：(特活)沖縄NGOセンター、(特活)開発教育協会

■ 内容：

歌（戦前の移民者の気持ちを歌った「移民小唄」やデカセギの気持ちを歌った「GAMBATEANDO（ガンバッテアンド）」）や写真、在日日系人のインタビュー記事を通して、移民の歴史やデカセギで来日している日系人の気持ちを知り、歴史や現状を踏まえ、日本における多文化共生について考えました。

★ ワークショップ参加者からの感想（気づいた事、疑問、質問など）

- ・ 物事を様々な角度から見ると違って見えてくる。それは不安定で不安なことかもしれ

ないけれど、でも同時にとても豊かなことにもつながるのですね。

- 自分を見つめるととてもいい機会になりました。同時に、自分のアイデンティティに関わる話をするとき、とても緊張しました。授業で扱うとき、このようなワークショップをするときは、このようなことを心に留めて注意して行わないといけないと思いました。
- 異なるというのは寂しいこと。
- 学校の授業で移民について少し触れたことはあるけど、今日のように深く考えたり話し合ったりしたことはなかったので勉強になった。グループの人や他のグループの方々の多様な意見が聞けてよかった。
- ディスカッションを行う事で、自分の経験を思い出し、とても考える時間になりました。私は身近に日系人などいないので、とても参考になりました。

iii NGO 相談員制度の広報

フォーラム当日に先立って1月28日～2月12日に開催されるギャラリー展示会場の情報コーナーおよび2月11日・12日のフォーラム当日に設置される4F会場の情報コーナー・相談コーナーにてNGO相談員のポスター掲示と広報チラシ（資料別添）を配布しました。また、よこはま国際フォーラム2012公式ホームページおよびFacebookページにおいてNGO相談員制度の紹介を行いました。さらにTwitterでもNGO相談についての広報を行いました。

よこはま国際フォーラム2012公式ホームページ

⇒ <http://yokohama-c-forum.org/>

よこはま国際フォーラム2012公式Facebookページ

⇒ <http://www.facebook.com/yokohama.c.forum>

6 集客人数または相談対応件数

『よこはま国際フォーラム2012』の参加者および参加団体

- 参加者（講座受講のべ人数：1,336人/2日間）
- 参加団体40団体（内訳：NGO、国際機関、JICA、地域国際化協会、関係機関、学校）

相談対応件数

NGO相談： 21件（2月11日：9件、12日：12件）

ワークショップ参加者： 25名

7 所感及び効果等

◆全体を通して

『よこはま国際フォーラム2012』への来場者という国際協力の関心層を対象にしたNGO

相談コーナーでの面談型の相談と開発教育ワークショップを同時に実施することにより、幅広い相談ニーズに答えることができました。協働した NGO 相談員団体 3 団体、(特活) 沖縄 NGO センター、(特活) 開発教育協会、(特活) 横浜 NGO 連絡会が日頃の相談業務の経験を活かし、互いの強みや相談員団体としての特徴を発揮しながら出張サービスを展開できたことは大変によかったと思います。また、準備プロセスや当日の活動の中で経験交流を図り、新たな知見を相互に得ることができたことも今後の NGO 相談活動にとって大きな収穫だったと思います。

◆相談コーナー

『よこはま国際フォーラム 2012』に来場する国際協力に関心を持つ市民・学生を対象に国際協力や NGO、ODA についての理解促進を図りました。参加団体からの組織運営や開発教育などについての相談に答えることができました。対応した相談員の強みを活かした開発教育に関する質問も多く寄せられました。青年海外協力隊 OB 会、シニア海外ボランティアを活かす会による相談コーナーと併催することで相乗効果もあったものと思われます。残念ながら多くの方が相談に訪れるにも関わらずスペースが物理的に少し狭いという印象がありましたので、次年度は、相談コーナーをより広い場所に移そうという計画案も既に浮上しています。

◆ワークショップ

参加者は学生、教員、会社員など様々な立場の方々が多く、また本ワークショップに期待することも、沖縄、移民、多文化共生、開発教育について知りたいと関心を持っている部分も多様でした。

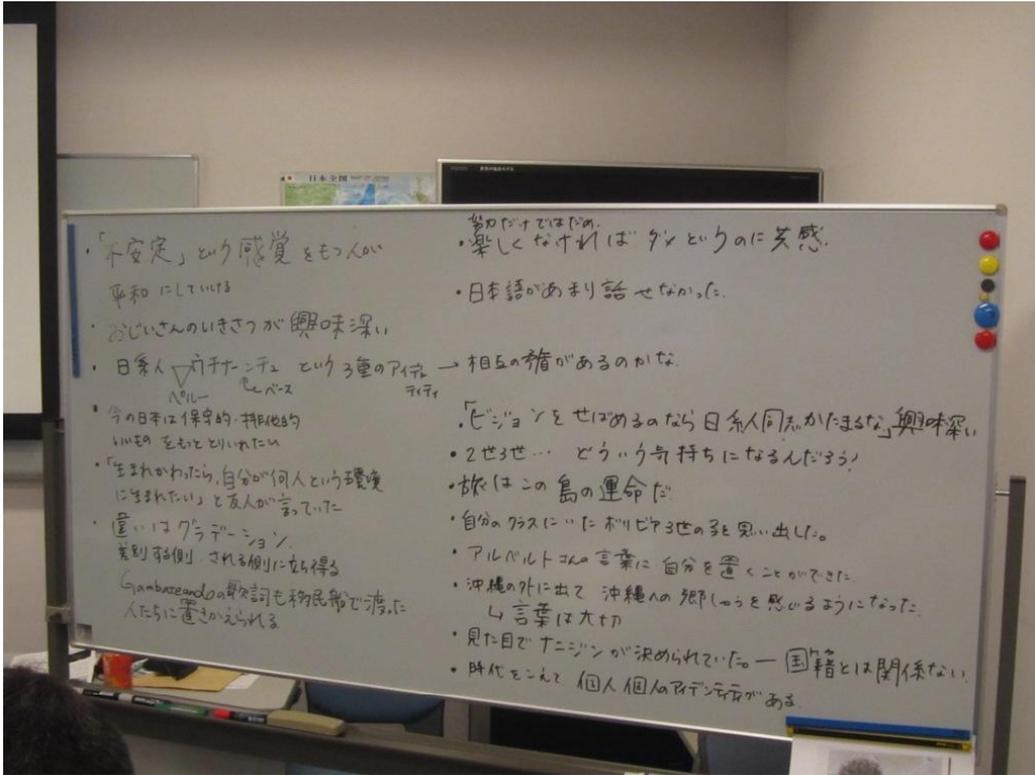
移民の歴史やデカセギ日系人についてあまり知らないという方もいましたが、情報提供あわせて、多文化共生における課題についても話し合うことができ、参加者の期待には幾分かたえられたように感じます。

グループに分かれ、メンバーと共に話し合いながら移民者の生活の様子や気持ちを読み取ったり、ディスカッションする形式をとりました。後半のペルー日系 3 世のアルベルト城間氏のインタビューを読み、共感する部分や印象に残ったところを出し合い、その中からアイデンティティについて意見を出し合う中で、他者への理解と同時に自分と向き合う機会になった参加者も多く見受けられました。今後多文化共生を考える上で、アイデンティティについて考えることも重要になってくると考えます。

◆NGO 相談員制度の広報

来場者はもとより参加団体に対しても NGO 相談員制度の広報と普及を図る機会になったと思います。Web や SNS を活用して広報できたことも良かったと思います。

8 写真資料



インタビューを読んで印象に残ったことをあげてもらいました。



各グループ1枚、移民先の写真を見ながら、どこの国か、何をしているところか考えています。



ワークショップの最後、今日参加しての気持ちを一言に表していただきました。



NGO 相談コーナー

円型テーブルを使ったデスクでの相談対応の様子です。混雑時は2デスクで同時に相談を受けました。

NGO相談員による出張相談実施報告書

1. 行 事 名 「ワン・ワールド・フェスティバル」における
NGO相談員の情報&相談コーナーの実施【形態：相談対応サービス】
キャリアセミナーの実施【セミナーへの講師等での参加】

2. 出張者氏名

特定非営利活動法人アジア日本相互交流センター：吉田文
特定非営利活動法人AMDA社会開発機構：山上正道
特定非営利活動法人関西NGO協議会：瀬良香織・奥谷充代
特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会：西保彦
特定非営利活動法人国際協力NGOセンター：伊藤衆子
特定非営利活動法人ソムニード：宮下和佳
特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター：広瀬哲子
公益財団法人PHD協会：藤野達也

(団体名 50 音順、敬称略)

3. 依頼元／主催等団体名：ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会
4. 実施日時：2012年2月4日(土)10時～17時、5日(日)10時～17時
5. 実施場所：大阪国際交流センター（大阪市天王寺区上本町 8-2-6）
6. 実施報告

(1) 企画概要

ワン・ワールド・フェスティバルの開催において、NGO相談員ブースを出展し、国際交流・協力活動やボランティアをしたいがどのような団体や活動があるかわからない市民や学生、そして開発教育に取り組もうと思いつながら、情報や教材の入手に悩んでいた教員、団体運営や事業企画に課題を抱える関係者など、様々な思いを持った人たちが第一歩を踏み出したり、活動を次の段階に進める後押しをするため、来場者の個別相談に応じた。相談コーナーには、NGO／NPO、ODA実施機関、国際機関等の国際協力活動や企業CSRを紹介するパンフやチラシを設置し、情報提供を行った。また、例年、本フェスティバル内で複数団体が合同でNGO相談員ブースを実施してきた経験から、複数団体が参加する利点とセクターを超えて多様な団体が集まる機会を活かすため、前年同様に以下の内容を実施した。

①本フェスティバル内で実施する「キャリアセミナー」にNGO相談員が講師として参加

「世界を変える」を仕事にするキャリアセミナー(5日12時半～14時半)

②関西に加え、他地域からも相談員が参加する利点を活かし、関西と他地域の相談員がペアを組んで同一時間帯に対応するようシフトを組んだ。

- (2) 参加者 フェスティバルの参加者 約1万7,000人
(3) 相談件数 相談コーナー 61件(4日：34件、5日：27件)
(4) 相談者の分類
- | | |
|------------|---------|
| 大学生・大学院生 | : 34.4% |
| 会社員・自営業者 | : 27.9% |
| NGO／NPO関係者 | : 9.8% |
| 高校生 | : 8.2% |
| 教員 | : 8.2% |
| シニア・無職 | : 3.3% |
| 自治体・政府関係者 | : 1.6% |
| その他不明 | : 6.6% |

(5) 相 談 内 容 (主な内容)

〔相談内容別割合〕	①就職について	: 42.6%
	②NGO/NPO活動	: 21.3%
	③インターン・ボランティア	: 19.7%
	④NGO組織運営について	: 8.2%
	⑤支援制度について	: 1.6%
	⑥海外事情について	: 1.6%
	⑦その他	: 5.0%

〔相談内容詳細例〕

- ① 国際協力分野への就職など進路・キャリアについて
 - ・NGO機関で働くにはどのような準備が必要か。
 - ・NGO/NPOで働くには社会経験、ボランティア経験があったほうがよいか。
 - ・国際協力分野の仕事の待遇について。
 - ・現在の仕事を辞めてNGO機関で勤めたいがリスクはあるか。
 - ・海外で国際協力の活動に関わりたい。どうしたらよいか。
- ② NGO活動について
 - ・NGOとNPOの活動の違いは何か。
 - ・戦争を無くす方法を知りたい。(高校生)
 - ・貧困撲滅の活動をしている団体の実際の成果を知りたい。
 - ・関西にはどんなNGO/NPO団体があるか。
 - ・全国のNGO団体の活動がわかる資料がほしい。
- ③ インターンシップ、ボランティア活動(国内外)について
 - ・学生の就職指導を担当しているがNGO・NPO団体でのインターン制度を作りたいが、どのようにすればよいか。
 - ・途上国で看護の仕事(ボランティア・有給)をしたいが、どのようにすればよいか。
 - ・海外で長期のボランティア活動をしたいが、どのように探せばよいか教えて欲しい。
 - ・情報を入手する方法や受入れ団体、活動内容について教えてほしい。
- ④ NGOの組織運営について
 - ・高校生でもNPO団体を設立できるか。
 - ・国内でNPO団体を運営しているが、海外にも事務所を設けたい。注意点は何か。
 - ・活動資金をどう確保したらよいか。
- ⑤ 支援活動・制度について
 - ・東北の震災支援の仕方について具体的に知りたい。
 - ・難民支援の活動を行う団体はあるか。
- ⑥ 海外の事情・情勢について
 - ・世界の諸問題・諸事情についてのイラスト集を作成したので役立てて欲しい。
 - ・自己のバックグラウンドである中国の文化を広めたいが、どうすればよいか。
- ⑦ その他
 - ・このようなNGO出張相談を横浜で実施してほしい。
 - ・国際協力の行事のあり方について疑問がある。

7. 全体的な感想

<相談内容について>

今回 19 回目を迎えた本フェスティバルは、既に多くの一般市民やNGO/NPO関係者並びに国際協力活動に関心がある学生、そして企業などからの認知を得ており、年々その対象者の層は広がっている。特に今回は、高校生主体の団体が初めて出展団体として参加し、来場者の層においても若年層が急増していた。これは国際協力、特にNGOへの関心値が若い世代に浸透してきていることを表していると感じる。

相談内容に至っては、国際協力分野への就職、その活動内容を知りたい、ボランティア活動に関わりたいなどキャリアに関する相談が全体の80%を占めた。大学生の就職先としてNGO機関・国連機関など国際的な環境での仕事を求めている傾向が伺える。また社会人においては、30代男性で安定した現職を離職してまでNGO/NPO機関で働きたいと言う仕事内容を重視した方もいた。その他、高校生からの相談の中で、「NPO団体を自分達で設立したいが、どうすれば良いかまったく分からない。本フェスティバルに参加して多くのNGO/NPO機関が多様な活動をおこなっていることを知り感銘を受けた。直ぐにでも何か始めたいがその糸口さえ判らない、どうしたらよいか。」といったものもあり、今回の相談者全体の10%未満ではあるものの、若い世代の自発心が高まっている事を、相談員として対応するにあたり非常に喜ばしいことであると感じた。

キャリアに関する相談が多いことから、昨年度から相談コーナーに加えて本フェスティバル内のキャリアセミナーに講師として参加する形式を継続した。セミナーを主催した団体からも「定員を上回るほどの多数の参加者があり、多くの質問が寄せられるなど活発な内容となった。」といった声が聞かれた。

<対応方法について>

昨年同様、関西の団体と他地域の団体の2人の相談員が対応するシフト制を配して、相談員の各団体の専門性を活かして対応を行ったほか、関西での活動を希望する相談者には関西の団体に対応し、他地域の相談者に際してはエリアブロックに属する相談員が対応したり、その地域の相談員受託団体を紹介した。

具体的な相談に至った場合には、フェスティバル内でブースを出展している団体を紹介し、実際に訪問して説明を受けることを勧め直接話を聞くように促した。また、関連するプログラムを紹介するなど、フェスティバル内に相談ブースを設置する利点を生かし、相談者が具体的なアクションを起こすことができるようにつなぐ役割も十分果たすことができた。

<課題と今後の展開について>

相談員からの声として以下のことがあがっていた。

- ①『相談コーナーの周知が充分ではなく、来場者にとって何のブースかわかりにくかった。』
- ②『多くの人通りがある場所でのブースのため、相談者との会話が聞き取りにくい。』
- ③『相談ブースが2名対応の為、相談者が多数訪れた時に対応できず、予定外の相談員に協力を求めた。』

上記の課題に対して、

- ①相談コーナーの周知については、「NGOに相談したい」「ボランティアしたい」などの

相談例を紙に書いてパネル掲示し対応した効果、相談者が来るようになった。次回は、総合案内所での「NGO相談員ブース」の告知案内を徹底して行いたい。

②については「相談ブース」が2階への階段を上った正面通路に設置されていた為、人の流れが激しく、スペースが少なかった。次回は、相談ブースを1階のNGO関係コーナーに変更することによって、スペースが確保できるとともに、NGO関係団体と隣接することにより相談内容に直結する団体を紹介することも可能となることから、場所の変更を検討したい。

③については、他の相談員が対応可能であったため、着席していない1人が順番待ちをしている来場者に対応するなど臨機応変に対応したが、相談員のシフトを組む際に順番待ちやPRの役割もシフトに入れて、相談者が多くなった場合に対応できる柔軟なシフトを組むように検討したい。

相談員が各地域のフェスティバル等に出張相談で参加し協力することはNGO相談員事業の効果的な実施と充実にもつながると考えており、引き続き、取り組んでいきたい。

2012年2月4日(土)

	相談者区分	NGO活動	組織運営	ボランティア・インター	支援方法	海外事情	就職	その他
1	NGO関係者・設立希望者		1				1	
2	高校生以下	2					1	
3	学生(大学・短大・専門学校)	2	1	5			9	2
4	政府関係者・地方自治体						1	
5	教員	1		1				
6	マスコミ							
7	企業・労組							
8	会社員・自営業者	1		1			4	
9	無職・退職者							
10	主婦・主夫							
11	その他・不明	1						
	合計	7	2	7	0	0	16	2

[相談対応団体]	[相談件数]
AMDA社会開発機構	3
関西NGO協議会	5
関西国際交流団体協議会	4
ICAN	7
ソムニード	5
JANIC	6
日本国際協力ボランティアセンター(JVC)	4
PHD協会	
34	34

2012年2月5日(日)

	相談者区分	NGO活動	組織運営	ボランティア・インター	支援方法	海外事情	就職	その他
1	NGO関係者・設立希望者	1	2	1				
2	高校生以下	1					1	
3	学生(大学・短大・専門学校)		1				1	
4	政府関係者・地方自治体							
5	教員	1					1	1
6	マスコミ							
7	企業・労組							
8	会社員・自営業者	3		3	1		4	
9	無職・退職者						2	
10	主婦・主夫							
11	その他・不明			1		1	1	
	合計	6	3	5	1	1	10	1

[相談対応団体]	[相談件数]
AMDA社会開発機構	1
関西NGO協議会	7
関西国際交流団体協議会	0
ICAN	2
ソムニード	5
JANIC	1
日本国際協力ボランティアセンター(JVC)	5
PHD協会	6
27	27

両日合計

	相談者区分	NGO活動	組織運営	ボランティア・インター	支援方法	海外事情	就職	その他	計	職業別比率
1	NGO関係者・設立希望者	1	3	1			1		6	9.8%
2	高校生以下	3					2		5	8.2%
3	学生(大学・短大・専門学校)	2	2	5			10	2	21	34.4%
4	政府関係者・地方自治体						1		1	1.6%
5	教員	2		1			1	1	5	8.2%
6	マスコミ								0	0.0%
7	企業・労組								0	0.0%
8	会社員・自営業者	4		4	1		8		17	27.9%
9	無職・退職者						2		2	3.3%
10	主婦・主夫								0	0.0%
11	その他・不明	1		1		1	1		4	6.6%
	合計	13	5	12	1	1	26	3	61	
	相談目的別比率	21.3%	8.2%	19.7%	1.6%	1.6%	42.6%	5.0%		100.0%

NGO相談員による出張相談実施報告書

1. 行 事 名 ワン・ワールド・フェスティバルについて
【形態：セミナー】

2. 出張者氏名 (特活) 関西国際交流団体協議会 眞鍋 瞳子

3. 依 頼 団 体 コリア国際学園 中等部・高等部

4. 実 施 日 時 2012年2月15日(水) 13時～16時

5. 実 施 場 所 コリア国際学園
(大阪府茨木市豊川2丁目13-35)

6. 実 施 報 告

(1) 企 画 概 要

①当協議会では、国際協力のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」の事務局を担っており、
コリア国際学園の生徒たちにフェスティバルの取り組みを紹介することで、国際協力やボランテ
ィア、NGO等に関する情報を提供したり、次世代の人材育成のきっかけづくりを行ったり、生徒
たちの国際協力・交流への理解を深めることを目的とした。

②コリア国際学園は2008年に開校したばかりの全校生徒50人と小さな学校である。「多文化共生」
「人権と平和」「自由と創造」を教育理念に掲げており、今回2月4・5日に大阪で行われた国際
協力のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」に7名の生徒が参加した。今回のセミナーで
はフェスティバルに訪れた生徒が見てきたことや感じてきたことのプレゼンテーションと、当協
議会がフェスティバルの趣旨や成果のプレゼンテーションを行った。

(2) 参 加 者 コリア国際学園 中等部・高等部の生徒 約50名
コリア国際学園 中等部・高等部の教員 6名

(3) 発 表 内 容 生徒たちのワン・ワールド・フェスティバル

7. 全体的な感想

コリア国際学園の校長先生が以前からフェスティバルの存在を知っており、かねてから生徒たちに
イベントに参加してほしいと考えていた。今回は視察という形で興味のある生徒たちを募り、7名の
生徒たちがフェスティバルに参加し、その報告をプレゼンテーションという形で全校生徒の前で行っ
たものである。前半行われた生徒たちのプレゼンテーションではそれぞれフェスティバルに参加して
見てきたものの印象や感想、それが今後どのように自分たちの中で活かせるかという発表を行った。
プレゼンテーションは質の高いものであり、フェスティバルのコンセプトのひとつである、「きっか
けづくりと国際協力への参加」がうまく伝わったものとなった。

後半に行った当協議会のプレゼンテーションの際には、熱心にメモを取る学生たちもあり、最後の

質疑応答では、フェスティバルに関するだけでなく、ボランティアについての質問があり、セミナーの前や後でも質問や意見などを個別に相談にくる生徒たちいたり、積極的な生徒たちが多かった。学校の意向としては、来年度は来場者として参加するだけでなく、フェスティバルへの出展も視野に入れており、そのことについての質問も教員より受けた。

全体的には学生だけではなく、教員たちも国際協力・交流に強い関心をもっており、このようなフェスティバルを通じて知識や情報を手に入れていたいという意欲が垣間見えた。

若い世代に国際協力のきっかけづくりや関西で活躍している NGO 団体の紹介などが行えるいい機会となった。

8. セミナー開催時の風景



生徒たちのプレゼンテーションの様子



その後、当協議会がフェスティバルの趣旨や成果を説明



話を聞く生徒たち



熱心にメモを取る生徒たちもいた

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名:「NGO 概論及びインドネシア／ネパールの農村紹介」

※出張形態：講演

2. 出張者：坂西卓郎 ((公財)PHD協会職員)

3. 実施日：2012年2月8日(水) 14:40～16:30

4. 場所：神戸市シルバーカレッジ (神戸市山田町下谷上中一里山 14-1)

グループ学習2F

5. 対象者：神戸市シルバーカレッジ

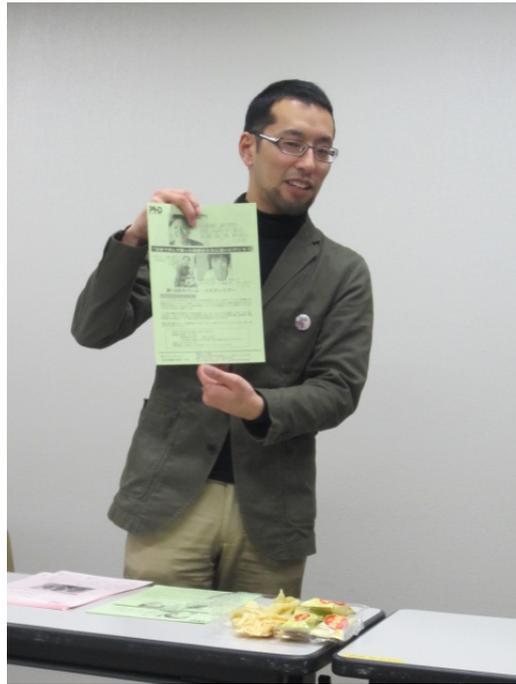
国際交流・協力コース 16期～18期生 23名

6. 実施報告：神戸市シルバーカレッジの国際交流・協力コースの学生に上記表題の講演を行った。シルバーカレッジとは、神戸市の57歳以上の方が入学できる生涯学習の場であり、3ヶ年かけて国際交流・協力を学ぶ。まず、NGO 概論として国際協力の実施主体としての NGO と ODA の説明などを行ったり、同時に違いや特徴などの説明を行った。シルバーカレッジのみなさんは社会人としてのキャリアは豊富な方が多く、ODA などの言葉についてもご存知の方が多かった。よって今回は入門的な話に加え、現在の ODA の状況や傾向、および NGO の現在についての話を行った。また ODA の総額が減っている中、NGO への拠出が保たれている現状なども興味深いようだった。

次にインドネシアの農村紹介ということで、当会の研修生、エリザ・フィトリ (インドネシア・22才)、パッサン・ラマ (ネパール・21才) とともにパワーポイントを用いて農村の紹介を行った。

インドネシア・ネパールの村の生活は受講者が子どもの頃の生活と近く、「50年前はこうだった」という声がよく聞かれた。その中で「遅れた農村を発展させる」という視点だけでなく、村のある生活や風土、知恵などを大切にすることの重要性、研修生は日本で自分の村の良さに気づく、などの事例を紹介し、国際協力とは何か、ということを考える時間を持った。

7. 添付画像：別紙に当日の様子を3枚添付



シルバーカレッジでの出張相談「講演」の様子①



シルバーカレッジでの出張相談
「講演」の様子②



終了後に主要メンバーの方々と記念撮影

平成 24 年 3 月 8 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
代表理事 竹内よし子 印

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたのでご報告申し上げます。

記

1. 企画名：「NPO 交流会」

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・NGO 相談員デスク】

出張者氏名：竹内よし子

2. 依頼元／主催等団体名：まつやま NPO サポートセンター

3. 実施日時：平成 24 年 2 月 26 日（日）13 時 00 分～16 時 00 分

4. 実施場所：愛媛 CATV オープンスタジオ（愛媛県松山市大手町 1 丁目 11-4）

5. 実施概要：

「NPO交流会」は、まつやまNPOサポートセンターが開催しているNPO・企業・行政の交流会で「お互いの活動をもっと知りあうこと」を目的として開催している。

松山市内・近辺で活動する国際交流・協力団体の活動紹介を行った。国際協力・交流活動、ネットワーク・中間支援に興味を持つ方からの相談が多く、当団体の経験を活かした個別対応をするとともに、交流会に出展している他団体と連携してそれぞれのニーズに合わせた対応を行った。以下は当日行った相談対応の内容である。

- ① 女性・NPO 関係者：転勤で台湾に引っ越すことになった友人が、不安を感じている。現地情報についてどのように入手したら良いかアドバイスが欲しいという相談があり、外務省 HP、愛媛県国際交流協会（EPIC）から情報を得られることを伝えると同時に、ちょうど会場に居合わせた方で、台湾に住んだ経験を持っている人を直接紹介することができた。
- ② 女性・NPO 関係者：東日本大震災支援に関して意見交換し、話し合いたいと考えているが、市内で非被災者がどんな支援をしているのか、具体的な情報を提供して欲しいとの相談があり、まずは現在行われているまつやま NPO サポートセンターや愛媛県社会福祉協議会の集まりに参加してはどうかと回答した。
- ③ 女性・NPO 中間支援団体：助成金獲得のためのセミナー開催企画を検討している。えひめグローバルネットワークがこれまで委託・助成金を活用して事業を行ってきた実績を踏まえ、講師としてノウハウを提供してもらいたい、という依頼があり、日程調整して協力することとした。

- ④ 女性・ホームレス支援団体：ESD の取組み、資料について情報提供してほしいと相談があり、当団体に関連している資料・冊子の紹介をした。



活動紹介、相談対応の様子

以上

平成 24 年 3 月 6 日

外務省国際協力局
民間援助連携室 殿

(特活) 沖縄 NGO センター

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 主催等団体名：NPO 法人沖縄 NGO センター
2. 実施日時：平成 24 年 2 月 28 日 19:00～21:00
3. 実施場所：健康福祉センター（石垣市）
4. 実施内容：

石垣市民と在住外国人を対象に「防災ゆんたくひんたく in 石垣」を開催し、石垣市民と在住外国人が災害時の行動や対応について意見交換をし、お互いの考え方や気持ちを理解するワークショップを実施した。また、外国人が感じている日本・沖縄の自然災害、災害対応についての心配や不安な気持ちを共有する時間を持ち、母国を離れ地域で暮らすひとりひとりの気持ちに寄り添う機会となった。

5. 参加者人数： 15 名
6. 所感及び効果

普段、行政の立場で市民と接している役所職員と在住外国人が、もし災害が起こったらどう行動するかを意見交換。それぞれの価値観、考え方のもとで行動判断があることを理解し合い、共有を深めた。具体的な防災に関する避難場所や外国人に対するサポート体制の薄さという課題も見えてきた。また、情報発信の大切さやネットワーク構築の重要さも話し合われた。ゆんたくひんたく（おしゃべり）から始めたため、お互いリラックスしながら、多文化共生と防災に強いまちづくりにつながる話し合いの場となった。



「もし災害が起こったら…」 意見交換



在住外国人の気持ちに触れる時間